

筋電義手 訓練拠点開設へ

神奈川県リハビリテーション病院に県子ども発達対応

手を欠損している人が筋肉を動かすことで発生する電流によって手指が動く「筋電義手」について、子どもの発達段階に応じたりハビリ訓練拠点が、神奈川県リハビリテーション病院

（厚木市七沢）に開設される。関連記事2面に
県が2021年度一般会計当初予算案にリハビリテーションロボット普及推進事業費として3373万円を計上した。

義手には、見た目を重視した動かない装飾義手や、肩など身体の部分の動きを利用して手や肘の部分の動きを動かす能動義手などがある。筋電義手は、腕の筋肉の収縮時に発生する微弱な電流

腕の筋肉の収縮時に発生する微弱な電流で手指を動かすことができる筋電義手（県提供）



で動作を制御でき、物をつかむ力も能動義手よりも強いという。

筋電義手に対する認知度は低く、長期間のリハビリ訓練が必要なほか、訓練用義手に公費負担制度がないことから、特に子どもへの普及が進んでいないのが現状だ。このため、県は21年度中に訓練拠点「未来筋電義手センター（仮称）」を同病院内に設置。リハビリ

訓練やフォローアップ体制を強化し、幅広い世代への普及を図る。胎児・乳幼児期から産科・小児科などの医療機関や自治体と連携し、父母との相談・情報提供体制を充実させるほか、小中学生や高校、大学生になるまでの間、訓練用義手の貸し出しなど

も行う。県は訓練用筋電義手の公費負担化や新たな開発支援を目指す。

県の県立病院課によると、県内では手を欠損している人が年間20人程度生まれていると推定され、病気や事故で腕を失った人も支援していく考えだ。

同課の担当者は「子どもの頃から筋電義手の使い方を身に付けることで就職先などさまざまな可能性が広がり、腕に障害のある方がより豊かな生活を送ることにつながる」と話している。

（佐々木 航哉）